

阿部正直と日本語協会

戦前・戦中・戦後を日本語教師はどう生きたか

河路 由佳

(発表の概要)

阿部正直 (1903 - 1966) は、戦前・戦中・戦後を日本語教師として生きた。その著作物としては、最近復刻されたものに『支那人に対する日本語の教へ方』(1939)、“A NEW JAPANESE COURSE FOR BEGINNERS”(『日本語初歩』)(1937)、ロシア語圏向けのラジオ講座「日本語」テキスト(1943)、『ABE JAPANESE READER Book One』(阿部日本語読本巻一)(1958)、『ABE JAPANESE READER Book Two』(阿部日本語読本巻二)(1958)があり、戦前、戦中、戦後を日本語教育に従事しつづけた人物であったことがわかっていたが、その人物について詳しく知る手がかりが乏しかった。

発表者はこのほど、阿部正直のご長男、阿部和彦氏に話を聞く機会を得、阿部正直に関する新たな資料に触れることができた。今回はそれらの資料を紹介しながら、阿部正直がいかに戦前・戦中・戦後を日本語教師として生きたか、に焦点をあてて発表する。

興味深いことは数々あるが、そのひとつに、阿部正直が大切にしつづけた「日本語協会」という組織名がある。すでに、1937年、最初の著書を日本語協会から刊行したとき、この協会の住所は「神田三崎町 三崎会館内」であった。のちに日本語教育振興会のおかれる場所である。戦後、阿部は神田 Y M C A 内に阿部日本語学校を開校するが、出版物は日本語協会から出すという形をとりつづけ、その住所は、港区芝北寺町、東京都世田谷区赤堤町、東京都杉並区高円寺、と転々とする。

阿部正直の足跡と同時代の他の人物やことがらとのかかわりなどについて、会員の方々からさまざまなご意見、ご教示をいただけたらと思っている。

(1) 阿部 正直 年譜

(年齢は誕生日後の満年齢) 作成: 河路

西暦 (元号)	年齢	事跡 (*印は関連事項)
1903(明治 36)	0	1月17日新潟県 南魚沼郡中之島村小杉新田 生まれ
1920(大正 9)	17	新潟県立長岡中学校 卒業
1924(大正 13)	21	山形高等学校 卒業、東京帝国大学入学
1928(昭和 3)	25	東京帝国大学 卒業(教育学・文学士)
卒業後数年		東京神田のY M C A、青山学院で教える(教育学など)。やがて東北学院大学 教授
1937(昭和 12)	34	“A NEW JAPANESE COURSE FOR BEGINNERS”(『日本語初歩』)を、日本語協会(神田三崎町1-2 三崎会館内)より刊行
1939(昭和 14)	36	『支那人に対する日本語の教へ方』を東亜同文会より刊行
1940(昭和 15)	37	7月1日 満州国へ。消滅した「満洲国」民生部 編審官
1942(昭和 17)	39	6月1日 ハルビン医科大学 日本語科主任教授
1943(昭和 18)	40	ロシア語圏向けのラジオ講座「日本語」テキストをハルビン書房より刊行、続編、また改訂版を翌1944年にも。
1944(昭和 19)	41	絵カード『ミクニ ノ コトバ』を満洲富山房より刊行。 5月20日 国立師道大学(吉林) 日本語科主任教授
1945(昭和 20)	42	6月 ハルビンにて現地召集、黒龍江省孫呉の123野砲連隊へ。敗戦で捕虜となり、シベリアへ。収容所で労役に服す。 ナホトカに於いて築港労務に就く。
1947(昭和 22)	44	4月12日に シベリアより帰国、舞鶴にて復員。新潟に帰る。 5月19日より米軍軍政部労働課に勤務。通訳、翻訳に従事。(- 1949年秋まで)
1950(昭和 25)	47	9月より、新潟軍政部 教育センターで 日本語教師(1951年5月まで)
1951(昭和 26)	47	東京へ。神田Y M C A内に阿部日本語学校を創立。各国大使などに日本語を教える。
1951(昭和 26)	48	『JAPANESE ALPHABET ひらがな』を新潟日报社より刊行(二種) 『日本語読本 巻四』を日本語協会(港区芝北寺町)より刊行
1958(昭和 33)	55	『ABE JAPANESE READER Book One』(阿部日本語読本巻一)を日本語協会(東京都世田谷区赤堤町)より、 『ABE JAPANESE READER Book Two』(阿部日本語読本巻二)を、日本語協会(東京都杉並区高円寺)より、刊行。(のちにそのかな版 『阿部日本語読本 巻1』『同 巻2』も日本語協会より刊行
1961(昭和 36)	58	『BIBLE STORY TEXTBOOK (聖書読本)』を日本語協会(東京都世田谷区赤堤町)より刊行。
1966(昭和 41)	63	8月 胃がんにて逝去

(2) 阿部正直氏 著作一覧

* 実物を確認できたもののみ。(作成: 河路)

	書名	著者	発行年	発行所	定価	備考
1	“ A NEW JAPANESE COURSE FOR BEGINNERS” 「日本語初歩」	MASANA O ABE M.A. (Professor of North Japan College, Sendai) 東北学院大学教授	1937 年 4 月	The Japanese Language Association Tokyo 日本語協会 (東京市神田区三崎町一ノ二 三崎会館 ¹⁾)	8 円	牧野出版より 1999 年に復刻版 (奥付なし)。阿部和彦氏蔵書も奥付なし。(財)言語文化研究所所蔵本にて確認
2	支那人に対する日本語の教へ方	阿部正直 東北学院大学教授・文学士	1939 年 7 月	東亜同文会 (東京市麹町区霞ヶ関 3 丁目 4 - 3)	2 円 50 銭	冬至書房より 1996 年に復刻版。
3	(原題 ロシア語) ラジオ講座「日本語」	邦語奥付 (阿部正直 哈爾濱市南岗区大直街 25)	1943 年 8 月	ハルビン書房 (哈爾濱市南岗区義州街 123)	50 銭	原著は簡素な製本。牧野出版より 1999 年に復刻版。(ハードカバーで赤いカバー紙)
4	(原題 ロシア語) ラジオ講座「日本語」	邦語奥付 (阿部正直 哈爾濱市南岗区大直街 25)	1944 年 3 月	ハルビン書房 (哈爾濱市南岗区義州街 123)	50 銭	内容は 3 と重なるところが多いが、改訂されている。
5	(原題 ロシア語) ラジオ講座「日本語」	邦語奥付 (阿部正直 哈爾濱市南岗区大直街 25)	1944 年 3 月	ハルビン書房 ((哈爾濱市南岗区義州街 123)	50 銭	上記のものに続く教材と思われる。
6	ミクニ ノ コトバ (カタカナ 絵カード)	阿部正直 著 川島はるよ 画	康徳 11 年 4 月 (1944 年)	満洲富山房 ((新京特別市豊楽路 608 号地)	3 円 50 銭	カタカナの絵カードカラー。箱入り。A 6 版
	ミクニノコトバフロク (上記の付録)	阿部正直 著	同上 (著者序文は 1942 年)	満洲富山房 (新京特別市豊楽路 608 号地)		日本語文 + 中国語、モンゴル語、ロシア語の訳。
7	JAPANESE ALPHABET HIRAGANA ひらがな	阿部正直 著 川上四郎 画 今成貞治 書	1951 年 3 月	新潟日報社 (新潟市東中通 1)	180 円	上記のカードと体裁は似ているが、ひらがな。単語に入れ替わり多数。裏に英訳。
8	日本語読本 巻四	阿部正直 (東京都港区芝北寺町二十二)	1951 年 10 月	日本語協会 ((東京都港区芝北寺町二十二)	500 円	漢字かな交じり。

¹ これは大正期の松宮日語学校、戦後の日本語教育振興会 (財)言語文化研究所と同じ建物。

9	ABE JAPANESE READER Book One (阿部日本語読本巻一)	MASANA O ABE Supervisor Abe Japanese Language School	1958 年 7 月 (前書きは 1952 年)	The Japanese Language Association Tokyo 日本 語協会(東京都世田谷区赤堤 町 1 丁目 209)	600 円	英文の対訳付き。ローマ字。 牧野出版より 1999 年に復刻 版
10	ABE JAPANESE READER Book Two (阿部日本語読本巻二)	MASANA O ABE Supervisor Abe Japanese Language School	1958 年 12 月	The Japanese Language Association Tokyo 日本語協会(東京都杉並区高円 寺 3-252)	700 円	B6 版。牧野出版より 1999 年 に復刻版(A5 版)。
11	阿部日本語読本 巻 1	阿部正直著	奥付なし	日本語協会	不明	Book 1 のかな漢字交じり版
12	阿部日本語読本 巻 2	阿部正直著	奥付なし	日本語協会	不明	Book 2 のかな漢字交じり版
13	日本語読本 巻 5 (別冊) 聖書の話	阿部正直著	奥付なし	記載なし(ガリ版刷り)	不明	「聖書読本」のもととみられ る。
14	BIBLE STORY TEXTBOOK 聖書読本	阿部正直 編	1961 年 10 月	日本語協会 東京都世田谷区赤堤町 1 -209	650 円	13 の増補改訂版と見られる。

(3) 阿部正直氏 関係資料一覧

* 本日、紹介する資料を年代順に整理した。(作成:河路)

項目	年月日	備考
1 若き日の阿部正直・定子・露里子の写真	1930 年ごろ	正直・定子は 1929 年 6 月 3 日 婚姻届入籍。
2 『A NEW JAPANESE COURSE FOR BEGINNERS』刊行に際してのパンフレット	1937 年	A5 より少し大きめの小冊子風の作り。拍子は二色刷り。内側の 4 ページは、内容見本。英文。注文書付き。
3 「哈爾濱医科大学 教授」の名刺	1942 年	日本語科主任教授 名刺の裏面は白紙
4 哈爾濱医科大学玄関前の阿部正直氏の写真	1944 年 1 月 20 日	裏面に、「曲作英 贈 紀元 2604 年 1 月 20 日撮 於哈爾濱医大玄関記念」
5 ハルピンより新潟の妻への手紙	1943 年 10 月 23 日	「富山房の印刷が完了したらしい。(中略)まあ、戦時下のものだといふ心をもつてこの印刷も見ると思つてゐる。」
6 妻と三人の子供たちの写真	1942・3 年ごろか	妻 定子と、長女 露里子、長男 和彦、次女 桃子
7 「満系 恭送 阿部先生栄転吉師大臨別留影紀念 一年」集合写真	1944 年	ハルピン医科大学の学生たちとの記念写真
8 「国立師道大学 教授」の名刺	1944 年	裏面は白紙

9	ミクニノコトバ フロクの校正原稿	1942 年 (原稿は 1940 年の日付)	もとのものは 1940 年。それを 1942 年に直しての校正。阿部正直氏による書き込み訂正、「校了」とあるが、書き込みの大部分は完成版に反映されていない。戦争目的の反映した文章を省こうとしたが実現できなかったプロセスが読みとれる。
10	満洲第 485 軍事郵便所気付 第 514 部隊 村上隊長より、新潟の阿部定子宛 はがき	1945 年 6 月か	阿部正直が軍隊で「元氣澁刺」と戦っている、との知らせ。
11	ソビエト ウラジオストック収容所よりの 捕虜用郵便葉書 正直よりカズヒコへ	1946・7 年	阿部正直が、収容所から息子カズヒコあてに出したはがき。検閲に便利ないようにすべてカタカナで書かれている。しばらく安否のわからぬ日が続いたあと、このはがきの到着で父の消息を知る事ができたという。
12	新宿区市谷第一復員局総務部連絡係より、正直あて、出頭命令	1947 年 4 月 26 日	連合軍司令部より出頭命令。5 月 12 日 9 時より 11 時の間に出頭すること。東京滞在は 4 日間。旅費その他は支給。(5 月 19 日より軍政部労働課に勤務)
13	新潟の米国軍政部に届けた英文の調書	1948 年 10 月 22 日	履歴などが書かれている。
14	「新潟軍政部労働課 顧問」の名刺	1948 年ごろ	裏に英文「Mr.MASANA O ABE Advisor Nigata M.G.T」
15	新潟軍政部労働課 チーフ ARTHUR F. LOEBEN から 顧問、通訳、翻訳の阿部正直への感謝状	1949 年 10 月 17 日	過去 2 年半にわたって顧問、通訳、翻訳の仕事においてきわめて優れた働きをしたことへの感謝が述べられている。将来は、その能力を生かして、アメリカの大学で日本語を教えることを願っている、とある。
16	新潟軍政部 教育センター RICHARD S. HARDER より ネイティブ教師として阿部正直を推薦する書状	1951 年 5 月 11 日	阿部正直が 1950 年 9 月から 1951 年 5 月まで、日本語会話 (SPOKEN JAPANESE) の主任講師としてすぐれた方法で立派な仕事をしたことを高く評価し、推薦している。
17	「educational manual EM 561 SPOKEN JAPANESE basic course unit 1-12」 by Bernard Bloch and Eleanor Harz Jordan	1945 年 1 月 1 日	表紙上方には「Abe Masanao」と鉛筆で記名、中表紙には、「Masanao Abe Niigata Education Center 5 th Oct. 1950」とペンで書かれた跡が残っている。
18	「War Department educational manual EM 563 Guide's Manual for SPOKEN JAPANESE basic course unit 1-30」 by Bernard Bloch and Eleanor Harz Jordan with Collaboration of Makiso Hane, Toshio Kono, and others]	1945 年 12 月 1 日	日本語母語話者用のマニュアル。「貴方の役目は日本語を発音して模範音を示し、彼らに夫を聴き取らせて同じ様に言はせる事でありませう。彼らの発音には深く注意を払って聞き、間違った発音をした場合には根気良く、又、気持良く何度でも訂正して上げて下さい。」とある。表紙上方にはペン書きで「Masanao Abe Niigata Education Center 5 th Oct. 1950」

19	「ミクニノコトバ」から「ひらがな」への原稿にあたる書き込み入りカード	1950 年ごろ?	1944 年の「ミクニノコトバ」に鉛筆で。戦後にそぐわない語は消され、新たな候補が書き込まれている。「ヂ」「ヅ」「ヰ」などは「不用」とある。
20	「ひらがな」の注文書 新潟日報社より	1951 年 12 月 15 日	「内地用 50 部、外人用 20 部」とある。カードは二種作られた。
21	新潟日報社より阿部正直あて送り状	1951 年 2 月 15 日	、「ひらがな」カード内地用 100 部、外地用 100 部を客車で発走した、という知らせ。新潟日報東京支社気付 阿部正直あて
22	新潟日報社 文化局より請求書	(1951 年?) 2 月、3 月分	外地用 1 セット 240 円。内地用 1 セット 130 円。外地用を 90 セット、内地用を 150 セット購入、82,500 円の請求書。
23	新潟日報社 より チャールズ・タトル社への請求書	1951 年 12 月 15 日	25 部・外地用 240 円×25 6000 円
24	ARTHUR F. LOEBEN から 顧問、通訳、翻訳の阿部正直への感謝状	1950 年・51 年ごろ (日付けの記述はない)	新潟軍政部労働課のチーフであった ARTHUR F. LOEBEN がアメリカへ 1 帰国してのちの私信。日本の経済状態を慮っている。アメリカの生活水準は高いものの、不況に見舞われている、との内容。帰国直後か。
25	「 ABE JAPANESE LANGUAGE SCHOOL SUPERVISOR MASANAO ABE」名刺	1950 年代	和紙で出来たもの。英文のみ、裏面なし。
26	「日本語協会 阿部正直」名刺	1950 年代初め	住所は港区芝三田北寺町 2 2 裏面は英文、「REPRESENTATIVE」
27	ABE JAPANESE LANGUAGE SCHOOL の案内書	1952 年度初め	1952 年秋学期の生徒募集。A4 版二つ折り。4 面。内側に学校の案内。
28	東京外国語大学学長 澤田節蔵より、日本語協会 阿部正直宛書簡	1952 年 1 月 24 日	栄光学園内日語研究所気付 エイレン ボッス神父あての紹介状を同封した、というもの。
29	THE JAPAN TIMES に掲載された BOOK TWO の書評	1959 年 10 月 1 日 (木)	ようやく BOOK TWO が出た、と喜びの書評。欠点があるとしたら、かな、漢字が学べないことだ、とある。英文。
30	立教大学「CHAPEL NEWS」ペリー教授追悼号の阿部正直によるエッセイ	1960 年 1 月 25 日	ペリー教授が酔った学生の暴力が原因で亡くなったときの追悼号。ペリー教授に日本語を教えていた阿部正直が思い出を寄せている。
31	ご子息 阿部和彦の名刺	1950 年代	「ABE JAPANESE LANGUAGE SCHOOL」の教師時代のもの。裏に英文
32	阿部日本語学校のレター・ヘッド	1950 年代	「ABE JAPANESE LANGUAGE SCHOOL」で使われていた便箋。
33	東京での阿部正直氏の晩年の写真 5 枚	1960 年代	家族写真など。
34	晩年のメモ 「なら」について	1962 年	鉛筆で「なら」の活用形について書かれたメモ。学習者に説明するときに使ったものと見られる。1962 年のカレンダーの裏に書かれている。